へ 13
2906
5

へ13
2906
5
昭和九年七月五日

春曉八幡佳話二編卷之二

江戸　爲永春水著

第九回

思ひ切る死出の旅路の拘束合せ　ごひの心お時へ女の義理

りのるまで神のうなぬ分のそまでとへさすろふ知れぬ

絲三郎よむろひ　時へ手ン　おすたん伝授とのぞ

おつ義さんぐもりく　楽じてく　どんあるよ乳紙りんでお立

ごらんなく　二階へ往て　奥紙ゑんを　お半

まゝ〳〵いたゞきてくハツと泣こゑ出るやもるゝね此場の様
東仙とあしてう秀八よ云ゝけるさんと拘まゝ用秀八ゝ
先刻よりくゝ〳〵くゝ笑ふる様の身のうへその相もある男ゝ
泣こゑ出るとゝるゝくゝ泣ひも出ねるゝしごこの時始めて
そゝとゝ初の作りのゝよゝんひげ様ゝさぞゝうまてる悔
しゝとゝ時ゝ対しゝて和ゝしゝさゝ面目るゝけまゝ奥及け
ゝゝゝゝゝる涙の雫ゝ様ゝ様ゝ身ゝ様ふゝふゝゝゝゝも
ゝ二ゝ世ゝゝゝのゝゝゝゝゝ

[illegible]
さんちのへとトいふ者ハ此の所の新よりまもなくらく仙ゑまさと言ハ[illegible]と唱ゑ見あげ見下ハ二階と
千枚方とのふとろ[illegible]
くまでの紙紙ゑう御い仙ゑ[illegible]
完和と知ひ一御まへさんもてもひ[illegible]
ちゆゑ方とのふ仙ゑまでの放さるいまじ[illegible]何ゑ
よつしく後ゑまごゑうと手紙金ゑる書仙紙ゑる[illegible]

[illegible]
ゑ秀八さんの方紙先人仙ゑろ殘金を義ゑ角の宅紙ち
ふへとかりてよゑうゑうゑ[illegible]ゑ秀さんの方を仙
ゑこゑつけるサ二殘の方ハゆ四ゑごゑうゑ[illegible]
あんまりても秀八のゑうゑ大[illegible]
ゑ御ゑ[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]ゑ[illegible]

ばくまつ秀八を源氏ゆうの縁をもて接く浦島氏法ハく
居るそそーるみけまべ浦ヶ弟八秀大ゑ河ひ一秀さんひろハ
ゆくそそ氏ゆうを遠てゆう縁ゑ中りとけうこのハゆう実ゑ今月う
わさ
ぬ月ハおまくの所へくづる氏で居くゆ稚くと氏ゆゆ氏氏
ツイ今月まで行くゆやさるんゆうかゆうべ月まく行ハ
ゆんで婚ゆーそおくんるせくトるくある氏ゆそりくハ秀
ハるめ一稚を氏一風稚るまとゆまくろゆくゆ
ゆも氏一く秀くくくいくて折角秀くまーて行ゆ

所へくらんざ氏チるゆゆ家ゆ今ーてさゆ考ゆくくとゆ思ひ
ゆくらうのゆ行ゆもチウ氏ゆゆ法ハ配ハいりませんゆゆゆくー
氏ゆどくろゆハりゆハ七場ゆ氏ゆくろゆ稚金中ゆ宅一人
とハゆくまんハョるゆ法ゆ稚ゆくゆ家ゆまま法ハくらうゆ
稚くくゆーハるゆおくくゆ法ゆくくえさゆハのゆまゆかゆハくくゆ
ゆ人織ゆくゆくーハ稚でゆゆハまゆ氏ゆ稚ゆゆ第くくゆ
ゆくくハくゆ無ゆくく侍くゆまくくゆのくくゆハ新くゆ
ゆくまゆのくゆ心ーを氏ゆゆくくと氏法ゆ氏ゆ弟ゆゆく

矢吉
秀八
弥三郎
食んで
桃む

どうも、私ゝ、ゝ、ゝ、

はう達のことをいとそまつに成ましき
うかつと他の邪魔とまくそのかさうり打おきまゝや私の
為よ義ひもうらうとうつてあさいやうぞうりろく
ぶん私へ〳〵おまへんもうりかげんを元体とおもい
あまり他よ情人成こゝらのうかで私の為よありまんも
のうちゝ〳〵ひの様ふうふらしの姿情人よおこらんでもまど
私のうちうの物事も言達まのうとおもいのの出会がらの出
ちゝめども為まうがどうつと因果うはるうおいて

のへだまうまてとこうひうぐうも様のうちわど表しひのゞ
うの暮うといふも私の一達るうしうの辛ゞョト様へ涙よおも
かうり事くうはぶしふ物く浦入ゞ様ゞ様へりもわまし
発事成さうりうぐう〳〵コヒサく表きんあまの物ゞ
ゞうりけのうりいうぐだうへ人伝稲ゞゞもの様ゞうぐう
おへく成ゞ人様ゞうの人様ゞ不人情ゞ表ゞ物ゞコサ城様
を表ゝて子私のいふゞ成他ゞトいふわうう陸ゞのか一
勇さんお松どんゞ伝馬ゝと言て呼ゞ来ゞョたゝう尾花

屋ごそうご仕ごアコろろうトいそきて庚八絵ヲ画く
ゑゑ爺さんお祝ごんいゆうまし〳〵
いろ仕まんヨト紙幾してこちあごまご紙と帯ヨ色かり
そそまトゆア今ふころ紙汗ヲうこそまこうゆ又山仕て
ゆて屋ろうろ今ア屋ア家義ヲ遠ク〳〵ゆ仕ろのヨ
紙ご紙ろ遠ろこのこ〳〵ヨ仕ごゆ
紙紙ろて屋ろうろ紙ろけそヨ
今ヨ入ろうろのこゆど義しふうろ幅しふ義

ヨト帯仕ごしてこちゆろ紙ろ帯ハ門ヲ小判
と小紙ヲ立て丸ごりろ紙ろ穂り〳〵隆ヨ今ヨ時ふ
紙のろの紙し紙仕紙ごアこまヲ先ヨりろく仕ろ紙ろの
紙今紙ろくしてヨてくんヨト庚八ヨこまふ
ろけく〳〵ヨ庚八ヨこ庚八ヨこまふ
いゞアヲ一対ヨこくア義紙ゆゞて紙ゆふ紙ゆ紙
をどふまろふヨそこで幕ゞゆろ紙ふろ人こと門ヲサ
アア大ろく仕て大ろく明て来ろ中ふしこ人ろ

ひ〻と秀八そいふく[illegible]
[illegible]
どのそ[illegible]ひごヨト あ[illegible]方ゞ同じる[illegible]
同士秀八と隣ゝ成わけて[illegible]
時さんの二階ゝ晩まで居るのゝ
用ゞ文〻ゝ居らア 秀八うそ成おもゝある晩まで
おゝ[illegible]ゝ 今夜もいけるのいわ〻ト寄側もやうみ
秀八ゝ[illegible]ゝ[illegible]ひわ〻ひ[illegible]ゝ 嫁ゝ[illegible]房をさ〻[illegible]
何ゞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 秀八[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

・婦人は別て川狩の瀬に立身のうへ成表れ出
る
今我のくさくさを者一とゝぶべーされば其人の恋
を今婦人の人知ることゝ思ふも限り無ひとひ恋を
て手にとりて不自由成紙いとゝ美美と其の
ひとゝ其の松山波こそと笑ふ者の美風なる
べーさまでもたれハ男女ともに恋をしー
合結の男人身寄おもふ女の力とゝのりて恋と
なる彼日の日も他意なくして安堵させ

さてその後八月朔日丹波の国
鳴海人情のさりし元の今もむすもおるゝ
けるとゝ丸て其頃城の身のうへを伺て投
ゝ寄りて客人に通ふ母うんそれ男女の投女の
身も千時十月の前料に強らを親方のため
すてゝ実義も投女の身ゝ付ゝ人を殺
身代弐とりて親る今月の雑費弐いつゝせん
そまと知ゝる人もあ
あるまゝ知りゝとゝ成表

是まで如よ立ゝ せるるゞて大ゝる所の若人を
紙よ勝ものき自流ありそれ製法よ紙を
わ是ども客人ゝ丹紙るゝまゝ紙ゲあれば
阿房らくゝ廊よさて情人男の仕送りを
ゝるゝもわゝんゝく開ゝして渡情代ふゝく。
如をゝゝまゝもゝとゝゝを其の情人男と
いへきゝ

第十回

ゝまゝ武ゝ紙い茂の武紙と呼ゝ東門院の女房名の紙ゝ
ゝ茂家の為時のゝゝ有名ゝ作宮参よ賜
アて大武のゝ伝を生りわゝと死無より門院へゞ
らき双紙やゝゝとゝゝ武紙よ。
其の中武作せゝて武紙ゝ石
ゝに年紙ゝが紙ゝ八月十五夜の月の湖ゝ
ゝ洗ゝて白洗ゝ澄の風情ゝゝゝゝ
ゞ頃ゝ昭石の表武紙ゝて次貴ゝ

そえゝ平日はよるてあり後よ京坂を加く除夜
あぐらぐらぐら和漢与千枝とらゝ和漢の双帋いづれ共われどしめ
ぐろうみるるらがむらゝぐゝぞ○えへまくこうや因会保氏の
元式見うるるのう拾へ伽婆さえト言ゝぐう根と有
向ゝ番て「ヲヤ伽婆さえいい法のまあう下へおいでぐ
をあぐ和さやアおまえさんのとうへおうんるさんの泥お
しも知りませんへ「るえぐ一紙よ賞で居さの「ナア一
てふまるゝゝ続ぐ居ま「ゝぐ百人一首の中よ

女の客の人のあぐひとゝる出ぐ有ます「ド」ハア賞
おかゝうと拾るあ式見ぐをのうえふ者ようるとは拾が
拾人モウ乾いふ者 どうゝをを続ぐとうゝく
賞ふるうまんあう人今ぐ紙のおまえさんの門宗さえる
る順女流の拾ぐ蛾湖ぐえ生まかゝくゝるうまえ
右ぐせんへ紙ぐ人和ぐようゝて好風でぐいまれへ
三とんぐるえいえアわるやアおるうの元の主人の嬢で
今アゝ墨地るの見拾ぐ世拾をて墨順女流ぐテ伽く

[illegible]の蓮の葉へ[illegible]をしてその[illegible]すると影[illegible]
の方へ[illegible]して[illegible]同[illegible]よるのゞ[illegible]
[illegible]の[illegible]さんまゝ[illegible]（さんとアノ秀八さん
とうとう南の[illegible]へおそいりゞ[illegible]
[illegible]と思つてわそこいの[illegible]の地境のにゝ張[illegible]。
[illegible]
[illegible]さんゞ秀八さんの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]をしく[illegible]ておいら[illegible]
[illegible]の[illegible]
秀八のけ[illegible]
せて[illegible]
[illegible]秀八ゞ[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

青柳乃
みさを
ゆきち
実乃風

家内へよろこまい私く　私ガまた秀さんへ
宝めの為ゴヨ　あくまでもかうまた千かぞ千ものの解ガ分ル　十二　そしん
ことばうまいのサンさいちろ家
秀八の方ハ家をおし　まれさまとおとゝのおるの
ものとかくいく　ものいハれないでも私のいふ通りさるこ
とゆ〳〵まるゞいなもアわりませんこゝハ　お君さんお
主人の気ハどうあるわ人けもどの　今さらいの方をゞ
ちとの　安来わ人ものけざらこ　お君さんと秀さんと近

結ようてあらくるべ　婚礼分にあるとこ何とこ
て　私会まるといわ人　天へイエどふ〳〵七善さんのこ
ゞもアあ私をうふひうこ　ろ安ハヨ　時善さんとこ人　天所ヤ
私ま秀ア　孫こさんの子どものの時の　名成ヲ　長ま
時一ヨ　そまゞ　ゞもアあまま人　ものえ〳〵　ものこ
孫こさんゞヨ　私ものこ　ま　孫こ

姉さんご様く様子のうちはさまづらのもう時「サヤ様ア様さん宮
きうあうときうしーうるべーー
様きまやア春ませんョおまさんもきと今よお飯あって
ゑ紙おわつてるゑ十へ徒て紙こーらくて来るうく、
様へマルく宮一ツサそーて茶いはるこーらくても来る
半コ 様へフム 御試をゑーーまづうるい姉よ 様ヤヤ姉さん
左様ーーやうわうませんいとんざ乃乃の紙引清さと
りんゑで香が付て来るョ 様へイエく様ゑ来るうけをせ
おとよひョドレゑくゑんどきうーて十へ来うませうゑへ。

姉さんお茶い様こーらくまんとんうあまんゑ
字ありとうるで出酒紙あるんなさいるわへ 様へ十二
りんゑ分後ョゑーて茶ゑ下に居ちゃ来るョ
ひうりと掛り合の人でも来ると大変ざう一角中
の乃ゑ二階より雪様こ様ゑ湯へつまて
わうまゑ何様ようー昔ざ茶漬をとゑるざうびりく
しく様んざゑ 様へイヤあんまゑ様いんの紙ゑと
実ゑの子の分のうへいゑうぞうと出れて黄ゑて

お稚子金も出さうとの人が撫ひるの絵文まで
ちらつかうもなく何所うも指のさしてもなくうち安
堪しておくんるせく実にまやく実にごぜいまんえ嬉
すの絵くおめくの性しる物新のおもとおとこと長さ
美の絵文さんと寿絵出しそその高貴人の判を
さうさうう大変ござあめくなつまてく偽ぐ中ちぐも
何でも根とそげ絵寿して行付さうう楽みさんを
付へそうやアアアよあうさねくもまでやう宝田中の人出

でも気づひ気へ欲よ時ちくこぐの手兵ごもの
やさぶろう手くかぎ手方とる体へやさうさ家でもかぶるのうト者
中式とする天へア実へかぐうへ高せんョ解うまてしう
ちる付へりあくくトこ式為ちあえ物ちしいねくイエ考ち
でまでアア肩方ケ屋くかりけてものねくさくまでやア
の人せん実世ちるれて海さくさんの門宝さえざいいのぐう見
て御美式陽さ方の例く拝例もひきまも薄
まて絵書の薄ちう

へ神やおきけを有るぞふぎうの毒ちまれへかへ羽織へ
ぶんえんのお世話をくるりもつけそこをちくへ世ろかまへ
ぜんえんの言へぞうぐしくもてこのしむ中ふまこれへ
へいまるけたらぐ 附へまり〳〵浮ぎうの手ゆうまで瓶如うく
そまこだやアうさ鼠ひも浮ぎさん鼠ゆ入いぢわるドレお
義式こーらくやうト第ひるぐら陸ふをかりてやく
へうどとあらいぐ行まるの義式文来法 色紙書
や様人の世義の奥めうこ義男へ第れうそ二連

附へ一回俳ふ八機さるくぐ 作うう 表へどうして形式つまてお
知るさう行るめうネ秀八ぎんるるぶ義式引金くもお歩仍
ぐらうけまぐ 附へぞうく 秀八も明安ぐう妻ものの愛ものの
ぐるる 庶ぐ房の義式引て種のふ雑ぐ何とりふ
りのら 表へアアサ 帯さんぐ 附へ義式ろうして居る行一寸
アレ市頭ぐ こびまネ 附へコロサく 酒ぐいやうう香ぐ
うう手移るさうぐ きくくるさんるぐ 表ぼよ秀ぼへるの
うう手多く きの義式下へのうく 住て附さんと関摩ホ

やうう　笑へ　お時さんとでも　秀八さんとでも　ねるお方と同席
みあゆんさまとまーとうせ　私ゃモアー小児ごろうおりろくござ
いますせんへ　孫「コレナまとそんなろ癖ばいりョサア世話とせ、
せ孫くで今見へまづめでとかけ合の源ご接ひよひこの
まくとこいよのホ　笑「そまとでも　実ひ接よ新ごてうくし。
まいりの孫　孫「サアそれごろうがーとらよのホサア情のこと
おるごぜごぜーとも　笑へ　そまとごぜ　くも　源ふごと
い孫へそーて　宝あまくさんおるるのう　孫　笑　こうと

用ばうそうそうまるのサ　孫　源ふとも　ひとり
呑せ孫くごゆうもが　源　十数　笑　アそれごゆうモ呑まんョ
ニヤくおそろーへお敬　孫へ　姫ごう　孫へ　姫ごうそうそうそ
孫　孫ばさくこうう　笑へ　ゆくくおるーしい孫へ下かるらーさ
笑　笑ごうて　笑へ　ひ長下ふくお時の愛
時「ゆやおそうくご　御ごでも　ちくく下へ行くポちくこと
源くまこうせうのと　難ばそうホ主。